

国際協力委員会

1, 2 月	特になし
3, 4 月	<ol style="list-style-type: none"> 1. アジア各国における栄養表示・健康強調表示のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・当該活動の協同リーダーである ILSI 東南アジア支部の Paulin Chan 氏からアジア各支部にドラフト作成を依頼し、最新の情報をまとめる。まとめたものは、今後は各支部の責任において支部ごとで更新することを考えているが、BeSeTo 会議等での報告も考えられる。 2. 「BeSeTo 会議」 <ul style="list-style-type: none"> ・8月31日、9月1日に都市センターホテル（東京）で開催予定。シンポジウムは「食物アレルギー」をテーマにする。 3. CODEX、FAO/WHO 等動向に関する情報収集/共有 <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニック、アクアカルチャー、FOP ラベル等の動向を確認しつつ、今後も継続的に情報共有するかは要検討。 4. 農林水産省委託事業 <ul style="list-style-type: none"> ・当委員会として、本年度の受託を目指して準備していく。
5, 6 月	<p>部会開催（6月21日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ILSI の使命・行動原則の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、改めて全委員に対して ILSI 本部作成の「ILSI の使命・行動原則」の説明がされた。 2. 「アジア各国における栄養表示・健康協調表示のまとめ」の進捗報告 <ul style="list-style-type: none"> ・ILSI 東南アジア支部の Paulin Chan 氏からアジア各支部に対してフォーマットが提示された（回答期限：6月末）が、実際には BeSeTo 会議の場で情報が共有されることになることが予想されると事務局より説明があった。 3. 国際協力委員会の活動戦略について議論 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は農林水産省委託事業に応募しないこととなったこと、BeSeTo 会議も3巡目が終了予定であり転換期となっていること等を鑑み、今後の当委員会の活動戦略について各委員から意見を求めた。事前にメール等で寄せられた以外に委員会会議当日全出席委員から意見をもらったので、事務局でとりまとめ次回会合でさらに議論を継続する予定。 4. BeSeTo 会議準備 <ul style="list-style-type: none"> ・日本からの演題および演者案を議論した。また、当日の役割を一部決め、ロードマップも示された。
7, 8 月	<p>部会開催（7月26日）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BeSeTo 会議プログラムの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、BeSeTo 会議および、それに先立ち開催されるサテライトシンポジウムのプログラムの説明がされた。 2. BeSeTo 会議における日本からの演題および演者の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・前回の部会で議論したことに少々修正を加え、新演題を含め日本からは以下7演題発表することに。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「食のリスクコミュニケーションの課題」[高橋（ネスレ）]、2) 「酵素の健康

	<p>影響評価指針」[滑川(ナガセ)]、3)「食品部生物研究部会の戦略と活動の実際(MGS, MALDI-TOF/MS等)[佐藤(花王)]、4)「食品安全を担保するための現在の課題」[中江 大先生]、5)「日本での HACCP の義務化に向けての課題」[厚生省監視指導課 福島和子様]、6)「保健機能食品の最新動向」[菅谷(花王)]、7)「BeSeTo 会議の今後の方向性に関して」[高橋(ネスレ)]</p> <p>3. BeSeTo 会議当日の役割分担と当日までのロードマップ確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局および国際協力委員会のメンバーで当日の役割を分担することに。 <p>4. BeSeTo 会議の方向性案をまとめた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に委員に対して意見を求め各委員に共有。事前の意見と当日の議論を基に、日本からは3つの方向性案を提案することとし、委員長がマテリアルを作成し事前に委員に共有して確認することにした。 <p>BeSeTo 会議(8月31日午後～9月1日)およびサテライトシンポジウム(8月31日午前)開催</p> <p>サテライトシンポジウムには60名を超える参加があり、日中韓の3か国の専門家による「食物アレルギー」をテーマにした発表および質疑応答後、パネルディスカッションが行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Labeling regulations on food allergy in Japan - Dr. Hiroshi Akiyama : Head Division of Foods, National Institute of Health Sciences ・Food Allergen Management in China - Dr. Yongxiang Fan : Head, Division of Food Safety Standard I, China National Centre for Food Safety Risk Assessment ・Food allergen Management in South Korea - Ms. Heejung Lee : Senior Researcher, National Food Safety Information Service <p>続く午後からの BeSeTo 会議には、日本の他 ILSI の各アジア支部からの参加者総勢 50 名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>8月31日午後の会議での日本からの演題および演者は以下の通り(発表順)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Food risk communication - Ms. Tomoko Takahashi : ICC ・Guidelines for risk assessment of enzymes used in food processing - Mr. Keisuke Namekawa : ICC <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p>
9, 10 月	<p>BeSeTo 会議(8月31日午後～9月1日)</p> <p>8月31日の午後に続き9月1日は終日 BeSeTo 会議を実施。</p> <p>会議には日本の他 ILSI の各アジア支部からの参加者総勢 50 名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>9月1日の会議での日本からの演題および演者は以下の通り(発表順)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品微生物研究部会の戦略と活動 佐藤 惇氏 (ILSI Japan 食品微生物研究部会、花王(株)) ・食品の安全性保証に関する現在の懸念 中江 大氏 (ILSI Japan 理事、東京農業大学) ・日本における HACCP 導入義務化検討 福島 和子氏 (厚生労働省)

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における食品のヘルスクレーム規制に関するアップデート：特定保健用食品（FOSHU）及び機能性表示食品 菅谷 博之氏（花王(株)） <p>続いて ILSI 東南アジア支部の Ms. Pauline Chan による支部間協力プロジェクトの進捗報告と今後の活動計画に関して全員で議論した。</p> <p>最後に BeSeTo 会議の今後の方向性に関し当委員会委員長よりいくつか方向性案を提示し全員で議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の BeSeTo 会議の方向性に関する提案 高橋 智子（ILSI Japan 国際協力委員会） <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p> <p>部会開催：9月15日(水)</p> <p>8/31, 9/1 に行われた BeSeTo 会議の振り返りを行った。</p> <p>各出席者から感想をもらったほか、会議での議論を踏まえて今後の BeSeTo 会議の在り方に関する日本としてみ解を改めて検討した。会議開催までのタイムラインとともに、以下の事項を日本から改めて会議参加支部に対して提案することに。</p> <p>年初に各支部の活動内容を参加支部間で共有し、次回の BeSeTo 会議で共有する課題案を各参加支部から募る。</p>
11, 12 月	<p>部会開催：11月14日(火)</p> <p>情報共有：事務局長よりイギリスの NPO 法人 IFIS（International Food Information Service）と面談した結果の情報共有があった。IFIS は Food science and health regulation database を提供し契約ベースで会員が法規を検索・ダウンロードできる仕組みを持つ。</p> <p>議題：規制調査結果の情報更新方法について。</p> <p>各支部へ情報更新を依頼する前に、まずは委員で担当国を分担し、年内に各国報告書のハイパーリンク先の状況をチェックし、再度リンク先の内容と、英語か現地語かの別も調べ、現在の報告書がどの程度 Out of date になっているかを把握することとした。</p> <p>次回 2 月に予定している部会で、何ができそうかを議論して今後の方針を決める予定である。</p>